

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501170		
法人名	社会福祉法人 みなみ信州		
事業所名	グループホーム あぐり河野		
所在地	長野県下伊那郡豊丘村河野1669-3		
自己評価作成日	平成22年11月25日	評価結果市町村受理日	平成23年5月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072501170&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成18年2月開設。開設当初より常に入居者本位のケアに心掛け、安心安楽の暮らしが継続出来る環境をスタッフ一人ひとりが真剣に捉え、内外の研修会への参加、自己研鑽、資格取得等積極的に取組み、入居者や入居者家族が「あぐり河野」で生活でき本当に良かったと思っただけのように努めてきた。個々との関わりを特に大切に、食事の準備や片付け、掃除、洗濯物たたみなどお手伝いをお願いし、スタッフと一緒に協力し支え合っている。ADLの低下が見られる入居者にはOT先生をお願いして、リハビリ体操を行い機能維持に努めている。家族との想いでや絆を大切に家族同伴旅行も行った。近くの小学校とは相互訪問、ボランティアの訪問等地元の方々とは交流が盛んである。同じ建物内に訪問介護・居宅介護支援事務所があり日常的に交流を図ったりもしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道をはさんで反対側には小学校があり、周囲は住宅街であり、広い駐車場を伴う法人所有の敷地の一角に事業所の建物がある。小学校の行事にでかけた折には、なじみの方に、声をかけてもらえるなど、地域に密着した施設である。系列法人が経営する訪問介護・居宅介護支援事業所は同じ建物にあり、訪問当日も利用者がお茶に出かけるなど日常的に交流がもたれていた。家族も参加しての年に1回の日帰り旅行は、家族との交流のまたとない機会となっている。開設当初は、お元気だった方も、年月を経て、終末期に向かい看取りについての意向を家族と共に確認をし、職員も対応について研修をすすめ、話し合いの場を持ち、方針を皆で共有している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしく暮らす』を法人の理念、ホームの基本方針として掲げ、職員会・ケア会時全員で唱和し日々の生活の中、実践に向けて取り組んでいる。	理念は玄関に掲げられ、法人全体のパンフレットにも、事業所独自の理念が掲載されている。管理者からは、職員会などの機会あるごとに唱和するなど、理念の共有に努めていると伺った。法人全体の理念「みんなの笑顔」は実践のなかに浸透しており、訪問時にみられた利用者の笑顔は印象的であった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校とは相互訪問で世代間の交流を深めている。地区の祭事や行事等招待を受けたり、婦人ボランティアの訪問がある。認知症症状や施設の内容などの質問や相談を快く受けている。	自治会には加入されていないが、地区のお祭りを見に出かけ、村の敬老会に招待されて参加される方もいらっしゃる。地域の方から、認知症の対応、窓口などについて相談を受け、対応している。事業所周圍の草取りなどは、ボランティアの方達の力をお借りしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム主催の納涼祭行事には地域の方々を招待して入居者と一緒を楽しんでいる。入居者と接することで認知症の人の理解を深めている。研修生の育成にも取り組んだ。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行い、ホームの情報を発信して意見や助言を頂いている。意見は入居者へのサービスの質の向上、職員の職場環境改善の参考としている。	会議は隣の他事業所の会議室で開催され、利用者も参加し、区長、民生委員、高齢者クラブの代表、包括の職員、村会議員、法人の理事などの方に委嘱状を出し、委員をお願いしている。会議内容は記録され、事業所の報告から、認知症への理解を深める学習まで幅広い。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊丘村包括支援センター、社会福祉協議会等関連機関への連絡・報告を行い、最新の情報を受けサービスの質の向上に活かしている。	包括の担当職員との連絡、相談だけでなく、今年度は、村の住民課長にも来所いただいた。事業所の特性から、地域の認知症の方の動向についても関心を持ち、事業所のあり方についても意見を交換されている。	村内の数少ない介護施設の一つであり、災害時の対応などについては、村などの行政機関と法人と、それぞれとの話し合いを望みます。

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加。参加スタッフより情報を受け、「身体拘束排除宣言」を玄関先に掲げ、実践に取り組んでいる。玄関の施錠は夜間防犯の為のみに行なっている。	玄関は、昼は出入り自由にしてある。安全を確保しつつ自由な暮らしということを管理者は十分理解し、新しく研修で学んだこともケアにも活かすように取り組まれている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加。参加スタッフより情報を受け勉強会を開催。虐待防止への理解を深め、ホームで虐待が発生しないよう全スタッフが努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加。参加スタッフより情報を受け勉強会を開催。職員全員が理解できるようにしている。地域包括支援センター内に精通した方がいるので必要に応じて支援できる体制ではある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、契約書、重要事項説明書等は時間を掛け、納得されるまでわかりやすく説明して同意を得ている。要望や疑問についても、必ず聞くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や要望は日々の生活の中から汲み取り、家族の要望や意見は家族会を開き聴く機会を設けている。面会時に家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている。月々のお便りの中にも聴く機会を設けている。	年一回の家族同伴の日帰り旅行のおりや、年一回の家族会の時には、意見をお聞きしている。近隣在住の方が多く、家族には来所を促して、来所時には介護記録等も見ていただいて、意見をお聞きするように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会・ケア会、日々の業務の中で職員からの意見や提案は聞くようにしている。	法人全体で、年一回の管理者と管理者の個人面談がある。職員会やケア会、朝のミーティングでも職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内外の研修会参加、資格取得バックアップ等で勤労意欲の向上を図ると共に職場環境作りに努めている。代表者等が定期的に訪問して意見等を聞いていただき、活動・運営に反映してもらうような体制を整えている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には職員一人ひとりの力量も考慮して積極的に参加している。また、内部研修も全員がレベルアップ出来るようにしている。資格取得への事業所からのバックアップ体制もある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県GH連絡会の正会員であり、下伊那圏域GH開催の研修会に参加。施設訪問や情報交換をする中、ケアの質の向上に活かしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された方の話を傾聴し、寄り添い表情や行動から思いを汲み取り、本人が安心して過ごせるようスタッフ全員で努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前、家族の方と時間をかけ相談するようにしている。入居後は、家族の方に入居されてからの様子を報告し、家族の方と共に支え合えるよう関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた時、ホームで対応ができない場合には他の事業所と連携をとり、必要なサービスを受けて頂けるよう支援している。		

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や家事レクリエーションを入居者と一緒に行い、長年の経験を伺い、日々の生活に取り入れている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月々のお便りで入居者の様子を伝えている。遠方等で面会の少ないご家族には電話で様子を伝えている。年一度家族同伴旅行を行い家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や馴染みの人や場所に訪れる機会を設けるなどして、入居者と思いの場所が途切れないように努めている。	小学校の音楽会、運動会などの行事に出かけたおりには、昔からの馴染みの人から、声をかけてもらうことがあり、地域の事業所ならではの交流がある。家族を招いての事業所全体の旅行は、家族もたくさん参加して下さる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、孤立しないよう配慮している。入居者同士が野菜の収穫や花摘み等共同作業をしている。ポタンとめの手伝いをしていたこともある。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前退去された家族の方から、介護相談を受けたこともあった。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望を聞きケアプラン表を作成、日々の関わりや会話の中から、本人の思いを把握する事に努めている。言葉や表情などから意向を把握するよう努めている。	センター方式を活用して、担当と計画作成担当者が中心となって記録をまとめている。ケア会議では、介護者全員で、思いを記録をしながら、話し合いを実施することで、新たな気づきが生まれる可能性がある。	

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より今までの生活歴や環境を面接時に伺いスタッフ全員が把握しケアを活かし実践している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の行動や動作を介護明細に残し、日々の状態や変化について状況を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフが意見を出し、本人、家族、担当職員、ケアマネが話し合い、利用者本位の計画になるようにしている。日々の関わりの中での意見を、職員全員でカンファレンスし個別のケアプランを作成し、3ヶ月ごとの見直し、ニーズの変化があればその都度見直しを行なっている。	利用者の担当は約1年ごとに交替している。担当と計画作成担当者が中心となって、計画をたてて、全員で話し合い、検討している。毎日の記録から評価し、計画の見直しまでの一連の書式は整っている。計画に基づいたケアを実施するためには、現状に即した計画作成と変化に応じた迅速な見直しが必要となる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の会話や日常生活での変化を介護明細や引継ぎノートに記録しケア会・職員会で共有し介護計画に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診がご家族のみの対応だったが、症状の進行や重度化、その時々発生するニーズに柔軟に対応する為スタッフも受診に同行して主治医より話を聞いている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区敬老会祝賀会参加、中学校の吹奏楽音楽会、小学校の運動会・音楽会を見学、楽しむ機会を設けている。婦人ボランティア訪問時に顔なじみと再会して楽しんだ。		

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>それまで受診されていた病院や医院が希望のかかりつけ医になっている。受診の時にはホームの様子を主治医に伝え返事を頂いている。必要に応じてスタッフが同席している。</p>	<p>受診は家族対応を原則としている。協力病院の訪問看護ステーションと委託契約し、月2回の訪問と、夜間等の時間外の対応も、経由して医師に指示をもらっている。毎週月曜日には、系列法人の歯科医が往診している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>バイタル測定や日々の生活の中で体調の変化に気を配り、変化が見られた時は主治医・訪問看護師に報告、医療面でのアドバイスを頂きケアでの不安を軽減している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>長期入院された時は面会に伺い状態を確認したり、主治医・担当看護師・ソーシャルワーカーと連絡をとり早期に退院できるように連携を図っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>法人で重度化・看取り介護の方針を作成し説明している。重度化に伴う意向確認も行なっている。現在、終末期を迎える入居者がいる。現実的な取り組みはこれから、終末期ホームできること、できないことの見極めはしている。</p>	<p>家族、職員等との話し合いの場を設けて、方針を皆で確認し、看取りについて同意をいただいた方もいらっしゃる。看取りの事例は経験しておらず、看取りした事業所の方を招いて、研修も実施している。全員に同意書を頂いているわけではないので、同意書をいただくタイミングが難しい。認知が進んでしまうと、意向の把握も難しくなるので、早い段階からの本人の意向を聞いておきたかったという思いがある。</p>	<p>職員内で、できることできないことを見極め、不安なことはその都度、ひとつひとつ、解決していく必要がある。管理者は、家族や職員のゆれる思いを受け止めるような対応を望みます。法人全体でも支援体制を組み、医療関係者などや家族を含めたチームで支援に取り組むことを期待している。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署職員に依頼して、AED使用・普通救命講習会を開催、応急手当方法を習得している。あらゆる場面を想定し定期的に開催予定。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回防災訓練(避難・消火)を行っている。ホーム近隣の安全も調査済み。夜間の避難訓練は今後計画予定。2分以内に駆けつけてくれる隣り近所の応援も協力的である。</p>	<p>夜間の避難訓練は未実施であるが、昼間の訓練は地域の方の協力も得て実施されている。3月にはスプリンクラーの設置工事の予定である。</p>	<p>スプリンクラーの設置後には、早急に実施訓練を実施し、機械の操作、通報を全員が習熟してほしい。</p>

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム独自で「言葉遣いの適正化に関する自己評価」を行い、評価基準を設け、ケアを行う時の言葉を常に点検し、入居者のプライドやプライバシーを損ねないようにしている。	言葉遣いについての研修を法人全体で取り組まれている。日々のケアの中でも、振り返りの機会を持つためにも、計画的な研修が必要である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、選択や自己決定が出来るよう働きかけている。その人の言葉や表情・動作などから思いを汲み取るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な一日の流れはあるが一人ひとり、その人らしく生活出来るよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに応じて服を選んで頂ける声掛けや工夫をしている。髪型は近くの美容師に来て頂き好みに沿って整えて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立の内容をお伝えし、一人ひとりの力に合わせて調理や盛り付けを一緒に行っている。一緒に食事をしながら感想や好みのものを伺ったりしている。	昼食を取りながら、ちらし寿司の具の味付けについて、今日のはいい塩梅とか、もっと甘いほうがいいのか利用者を変えて皆でお話されていた。準備も、少しずつ、出来ることをさりげなく、支援する姿がみられた。土曜日の朝は、パンにするなど、メリハリを持たせたり、季節の献立も大切にされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分、カロリー摂取量をチェックし、介護明細に記録している。状況に合わせて食事形態の工夫をするなどして食事量の確保に努めている。		

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者の状態に合わせ、毎食後口腔ケアの声かけとチェック表を付けている。必要な方には見守り・介助を行なっている。必要に応じて歯科受診に繋げている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターン、排泄前行動を把握しながら出来る限り本人の状態に合わせた排泄ケア、トイレでの排泄が出来るように日々支援している。</p>	<p>おむつ使用2名、先回りしての排泄介助を心がけている。汚れたパットをタンスの中におしまいになる方には、出来る時は一緒にまたはさりげなく片付けることもある。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の多い食材を多く取り入れた食事内容にしている。水分は多く摂取し、牛乳やヨーグルトも取り入れている。おやつには菜園で取れたサツマ芋も食し、夕方前体操や歌を唄い便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>ご本人の希望と健康状態を考慮し入浴を楽しんで頂いている。入浴時はスタッフと大切なコミュニケーションの場、身体の観察等も大切にしている。</p>	<p>入浴を拒否される方はいないが、一人でゆっくり入りたい方2-3人には、脱衣所で職員が見守りしている。入浴は2日おきで月に10回前後である。菖蒲湯、ゆず湯などの季節感も大事にしている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ご本人の生活習慣や体調・希望に合わせて起床・就寝の支援をしている。昼食後、1時間程度の昼寝時間を設けている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>身体状態に異変を感じた時は速やかに主治医・薬剤師・管理者に連絡、迅速に対応できるようにしている。服薬支援や薬の副作用について勉強会も行った。</p>		

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、家事や農作業を通して一人ひとりが主役になれるように働きかけている。気分転換の為、ドライブや遠足・散歩に出かけたりしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	嗜好品など個人的に購入時はスタッフと共に買物に出掛けている。家族や地域の協力で日帰り遠足や紅葉見学、又近くの公園にはおにぎりや煮物持参で出掛けている。	嗜好品などの買い物を一緒に行くこともある。事業所のまわりの駐車場や近くの畑にも出かけている。夏の間は、畑にでて、収穫したり、農作業をする方もいらっしゃる。ホールに面している広いベランダでは、お茶を飲んだり、食事にもすると伺った。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で預かっていますが、欲しい物がある時はスタッフと一緒に買物に出かけたり、スタッフが購入したりして支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	筆まめの入居者は子どもや孫、親戚に行事や出来事を認め、スタッフと一緒に郵便局まで出しに行きます。家族との電話交信は時々行っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上や玄関・洗面台に季節の花や果物を飾り、四季折々の風情を感じて頂けるようにしている。床やトイレ・洗面台などの清潔にも努めている。	共有のホールは、天井が高く、窓も高く明るい。畳敷きの部分には、こたつが置いてある。壁には皆で出かけた家族との旅行の写真が大きくして貼ってある。皆で作成した干支のうさぎの貼り絵も飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお仲間同士でソファーに座って雑談したりテレビを見たりしている。ご本人の居室にてゆっくりと好きなように過ごされてもいます。		

外部評価結果(グループホームあぐり河野)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が今まで使用していた、たんすや鏡、位牌・家族やご主人との思い出の写真など持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう支援している。	持ち込みのベッドの部屋や、畳の部屋もある。棚も持ち込まれ、好みの写真や飾りが壁に貼られたり、置かれたりしている。毎朝、部屋の掃除は出来る人は自分で、足りないところは職員が補っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下には手すり、トイレには介助バーを設置、夜間照明にも配慮、安全快適に生活できるようにしている。トイレには大きく「便所」と分かり易く手書きで書いてある。		